

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 86

学校名・団体名	豊岡市立田鶴野小学校
HPアドレス	http://www2.city.toyooka.hyogo.jp/edu/school/tazurunno-es/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ふるさとの宝を創造し、自信と夢を育むキャリア教育

〈活動・研究の意義、目的〉

急激なスピードで技術革新が進み、変化し続ける社会に生きていく子ども達にとって、生涯を通して学び続けることが必要不可欠である。また教科書や教室の中だけで完結する学びではなく、学びを社会と結び付け、生きて役に立つ学びへと展開していく必要がある。そのために、地域社会の様々な教育資源を教育活動に生かしていくことが求められている。

本校では、2年前より、多様な職業人と子どもとの出会いを作り、児童の夢や目標を育むキャリア教育の実践を行ってきた。しかし、意欲の向上や児童の積極的な変容が長続きせず、消極的・受動的な姿勢が見られる。

そこで今年度は、外部講師を招いた授業を1年間の中に計画的・意図的に配置し、学ぶ意義や学びと社会のつながりを発見したり、自分の夢や目標を見つめ直したりする機会を設定した。また、地域人材を活かし、ふるさとの魅力を発見したり、地域の課題に興味関心を向けたりする取り組みを行うことで、児童が身近な地域に愛着や誇りを持ったり、問題意識を持ったりして、学ぶ動機を育むことも目指した。

そして、学び続ける土台としての自己有用感・自己肯定感の形成にも取り組んだ。社会で活躍する職業人と関わり認められることで芽生えた自信を、本校の強みを生かした異年齢集団による「縦割り清掃」「合同授業」等の活動の中で、確固たるものへと育て上げるために、年間を通して取り組んだ。以上の通り、学び続ける原動力（夢や目標・ふるさとへの愛着、誇り、問題意識・自己有用感、肯定感）を育むことを目指し実践を行った。

1 概要

ふるさとの宝を創造し、自信と夢を育むキャリア教育

- 多様な職業人との出会い・対話から夢を育む
- ふるさとを題材とした学びから、ふるさとへの愛着と誇りを育てる
- 授業・学校生活全体で、自己有用感・肯定感を高める

学び続ける原動力

- 夢・目標
- ふるさとへの誇り
- 自信

2 1年間の取り組み

① ワールドカフェで共通理解

4月、全職員で本校の児童の実態を交流し、共通理解を図った。また、3年生以上の児童にアンケートを行い、児童の意識調査を行った。

② 夢や目標が、学びに向かう力になる

(4～6年生) 仕事博～学びと社会をつなげ、学びの意義を発見する～ (H29.12.7)

子ども達の目が輝く

靴づくりを体験



仕事に込められた想いに触れる



講師を囲み語り合う

ふるさと豊岡で活躍されている7人の職業人(本校の保護者3名を含む)を一斉に招き、学びと仕事・社会とのつながりや学びの意義を発見する授業に取り組んだ。昨年度に続き2回目となる今回は、豊岡市が生産量日本一を誇る靴産業、全国から注目を受けるコウノトリ育む農法、人口減少の課題解決に取り組む市役所職員の方などを講師に招き、ふるさとの魅力や課題にもふれる機会とした。また各ブースでは、プロの仕事の技に触れ自分が体験することができたり、児童が素朴な疑問や悩みを講師に尋ね、夢や目標を語り合ったりする時間を設け、体験型・対話型の授業となった。年間を通して、児童が夢や目標を考え意識する機会を持たせるために、「先生の夢プロ」や本市出身で活躍されている職業人の書籍コーナー等を設け、日常化を図った。

<子ども達の声>

- 僕は学校の授業はなんとなくやっていたけど、仕事博で話を聞いて、分からないことは質問し、得意なことはもっと伸ばし、将来につなげていきたいと思った。
- 建築士には、算数の学習がつながっていることが分かったので、これからも算数を頑張りたい。
- たくさんの仕事があって社会が成り立っていて、どの仕事も人のためになっていて素敵だと思った。
- 私は、市役所の仕事に興味を持った。豊岡がもっと豊かななる活動もやりたい。
- 僕は何かを作るのが好きなので、建築の仕事に興味を持った。



先生の夢プロ

校長をはじめ、全教師が自分の夢や体験を語る

日常へ



豊岡市出身のイラストレーターかしわらあきおさんの書籍やメッセージコーナーを設置

③ ふるさとの魅力を再発見し、愛着と誇りを育てる



(全校生) ご当地ソングでふるさとの魅力を学ぶ

(5年生) JA 職員さんによる「コウノトリ育む農法」の授業

(6年生) 玄武洞ガイドブックを作り、観光客へPR!



朝の会等で、新聞を使って、地域話題を紹介

地元在住画家と共に、ふるさとへの想いを一枚の巨大な絵に表現 (3・6年生) (H30.1.16) (1.23)

本市では、ふるさと豊岡の魅力を学習するふるさと教育に取り組んできた。本校では、校区内に山陰海岸ジオパークの玄武洞公園があり、自然豊かなコウノトリの生息地が広がっている。様々なゲストティーチャーや体験活動を通して、その魅力を学習してきた。また、地域住民による校区内に残る昔話の読み聞かせを行ったり、新聞を活用し地域のニュースを紹介したりする等、地域社会への興味・関心を日常的に高める取り組みを行ってきた。そして、ふるさとの魅力や愛着を一枚の巨大な和紙に描く共同制作に取り組んだ。地元在住の画家「田中 今子」氏を講師に招き、二回にわたって指導を受けた。1枚の和紙を囲み、ふるさとの美しい風景を思い出し、話し合いながら、連なる山々や田園風景、雄大な円山川、そこに暮らす人、コウノトリ、生き物などを描いた。その学習を通して、ふるさとの魅力を再発見し、ふるさとへの愛着や誇りを育むことができた。

④ 自己有用感・自己肯定感を高める～多様な職業人と共に創造する授業～



縦割り掃除で上級生が活躍

異学年の合同授業で自信



(5・6年生) 作家と共に、オリジナルはんこ作り

(6年生) 本校のテーマソング「田鶴野自己応援歌」を作りライブで全校・地域へ発信!

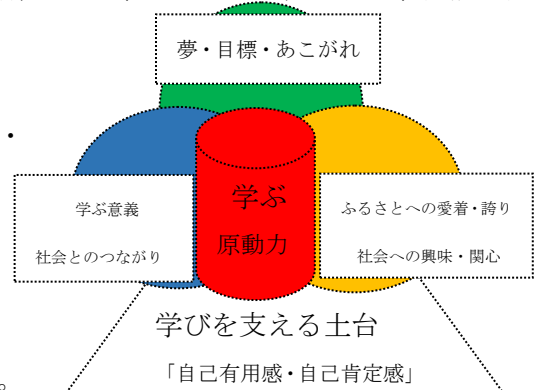
日常の授業・学校生活の中で高める

外部講師の話聞くだけの受け身の授業では、子ども達を変えることが難しく、高まった意欲も一過性のものになってしまう。そこで外部講師と共に製作活動を行う授業づくりを行った。例えば「世界に一つの自己応援歌作りとライブ」「世界に一つのオリジナルはんこづくり」などである。共に製作活動を行う過程で、社会の中で活躍されている職業人と関わり合い、認められる機会を少しでも多く生み出すことで、子ども達が自己有用感・自己肯定感を高め、社会への関心や学びへのモチベーションを高めることができた。特に、6年生で行ったテーマソング作りの授業では、「引っ込み思案で消極的」という児童の実態をもとに、「強気」をテーマに子ども達が作詞を行い、チームで振り付けを考え、レコーディングを行った。そして、全校生・地域へ発信するライブを開き、あえて苦手なことに挑戦し、大きな達成感を味わうことができた。さらに、本校の伝統であり、小規模校の良さを生かした縦割り班活動や異学年の合同授業を、「自己有用感・自己肯定感」を高める絶好の機会として意義付け、積極的に取り組んだ。伝統的に行っていた取り組みにも、ねらいを明確にし意識することで、教師にも子ども達を評価する視点や意識が明確になり、子ども達が認められ、自信を付けていく姿が、日常的に増えていった。

3 成果 児童アンケート結果を中心に振り返って

昨年度までの取り組みの課題から、今年度は、年間を通して計画的・組織的に行うこと、単発の取り組みに終わらず、日常の授業や教育活動全体へのつながりと展開を意識して取り組みを行った。

5月と2月に行った児童の意識調査(3～6年生)によると、学習意欲、夢や目標、自己肯定感、ふるさとへの愛着等の全ての項目で、肯定的な回答の割合が上昇していた。中でも、多くの取組みを行った5・6年生では、自己肯定感・自己有用感、学習意欲、地域や社会への関心等が、2～4割近い数値の上昇があり、実践の効果が見られた。



○学習に意欲を持って取り組んでいるか

「とてもあてはまる」と答えた児童が
39% →→ 77%

○人の役に立っていると感じるか

「とてもあてはまる」と答えた児童が
51% →→ 74%

○田鶴野(校区)の自慢できる場所はあるか

「とてもあてはまる」「あてはまる」が
85% →→ 94%

○夢や目標を持っているか

「とてもあてはまる」「あてはまる」と答えた児童が
82% →→ 88%

○自分には良いところがあるか

「とてもあてはまる」「あてはまる」と答えた児童が
66% →→ 82%

○地域や社会の出来事に関心があるか

「とてもあてはまる」「あてはまる」と答えた児童が
64% →→ 88%

これらの結果から、児童が学び続ける原動力を育てる一つの方策として、地域社会で生きる多様な職業人との出会いを意図的に仕組み、職業人との対話や働く姿から、夢や目標を育み、学ぶ意義や学びと社会とのつながりを児童が発見することが有効だと考えられる。そして、受け身の学習ではなく、多様な職業人と共に製作活動をしたり、地域の課題を解決したりする等の学習を通して社会で活躍する大人に認められる体験が、児童が自信を持ち、社会に目を向け、社会に関わろうとする意欲を育てるのではないだろうか。それらをきっかけに芽生えた意欲や自信を、私達教師が、意識的に、日常の授業や教育活動全体の中で確固たるものへと育て上げていくことが、生涯にわたって学び続ける土台となるのではないだろうか。今年度の成果と課題を糧として、目前に迫った学習指導要領の改訂に向けて、「社会に開かれた教育課程」の在り方を模索していきたい。